

fab C. vol.18  
2024年1月1日発行

◇編集  
太田一帆 辻本桜子  
◇発行

東京理科大学創域理工学部建築学科  
伊藤香織都市計画都市デザイン研究室  
〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641  
TEL 04-7123-4785  
URL <https://www.rs.noda.tus.ac.jp/~i-lab/>  
◇印刷・製本  
祥美印刷株式会社

# i-Lab



## Members

Professor 伊藤香織

Assistant Professor 高柳誠也

D3 一谷和希 常泉佑太

M2 大山優 岡野遼太郎 北村公佑 島茉莉香 中積弥恒 平井聡一郎 室賀恒輝

M1 天野航一 伊藤陽一 佐藤水香 辻耀 濱口桂帆 濱松翔 南谷優太 四方田綾乃

B4 安藤朋恵 太田一帆 齋藤和奏 陳嘉檀 辻本桜子 許山桂 古林陸 本庄翠菜

劉雨萌 リュウルセン 鈴木榎



# fab C.

vol.18.

## Contents

春ピクニック	01
ピクニックインタビュー	03
复合宿	07
活動報告	11
論文・設計	19

fab C. は伊藤研究室（東京理科大学創域理工学部建築学科）が発行するフリーペーパーです。研究室の活動を中心に都市の研究とデザインに関する情報やメッセージを発信する媒体を目指しています。

# Spring Picnic



Craft Beer  
"CITY HOP"

飲食を通じた公共空間での交流促進の一環として、伊藤研究室と「団地キッチン」田島がコラボして、ピクニックをイメージしたオリジナルクラフトビールを作りました。ビールの風味を決め、WSでの仕込体験を行い、ラベルデザイン・ビール名の考案を経てビールが完成しました。

## 「団地キッチン」田島とは？

「食」をテーマに団地と周辺地域を繋ぐ目的で誕生しました。カフェ、シェアキッチン、ブルフリーがあり、「食」に関わる様々な人々に交流が生まれることを目指しています。



濱本良二さん 福田哲也さん

草の上で海越しに都市を望むイメージで、セゾンをベースとしたurbanでgrassyな風味にしました。

## レクチャー



私たちにとって身近な「食」に関わる議論は親しみやすく、新しい交流を生むことを実感しました。

## ビールの風味決め



## 仕込ワークショップ



台場公園でのピクニックは、お酒と海の景色が相まって先生と学生の垣根を超えた交流の場が生まれ、クラフトフトビールを片手に会話が弾みました。

## ローストポーク



## キッシュ

## ピクルス

## Picnic Interview

ピクニックインタビューでは、毎年ゲストを招き、くつろいだ雰囲気の中でお話を伺っています。今回はプロダクトデザイナーの柴田文江さんにお話を伺いました。



柴田 文江 さん

プロダクトデザイナー。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業後、大手家電メーカーを経てDesign Studio S設立。家電製品から日用雑貨、医療機器にいたるまでデザインを手がける。2018～2019年度グッドデザイン賞の審査委員長を務める。

プロダクトデザイナーとしての歩みを教えてください。

実家が織物を作っているクラフトマンだったこともあり、ものづくりが身近にあったのもものを作ることがすごく好きでしたし、絵を描くことも得意でした。ただ、自分の得意なことをどう生かしたらいいのかわからなくて。そうした中で小学生の時にそういうのを「デザイン」と言うことを知り、美大があることも初めて知りました。その頃から美大に行こうと思っていたんです。高校では先生の勧めで美術部に入りました。最初はグラフィック志望だったのですが、予備校時代に立体のデザインがあることを知りました。暮らしを良くするデザインは、まさに自分がやりたいことだと思い方向転換しました。そうして美大に行ったのがプロダクトデザイナーとしての始まりです。

現在では独立し、医療機器などの工業デザインも行っています。自転車や電車といったモビリティのデザインもやってみたいですね。純粋に、デザインだけでみんなの気持ちが変わるようなことをやりたいと思っています。

## ユニセクスのプロダクトを

ガラスのカップとして UNITEA が代表的ですが、デザインへのこだわりについて教えてください。

今では温かいものも飲めるガラスのカップが普通だと思われていますが、UNITEAの以前にはなかったと思います。依頼を受けた当時、ガラスのコップはとても小さくて、ティーカップは女性っぽくて、ものに性別があると感じました。そこで、みんなが使えるガラスのカップがあったらいいなと思ったんです。マグカップのようにがっしりと持てるものを作ったらユニセクスになりますよね？しかもUNITEAはカップの他にポットなどにも展開しています。そうしたことも含め、あまり女性・男性という区別がない方がいいなと思います、大きな持ち手の形にしました。

また、当時のカップは全て上広がりだったのですが、UNITEAは下に広がる形です。このデザインはウィングラスから発想したのですが、見方を変えると全く新しいものになるのがデザインの良いところだと思います。



Photo by Design Studio S



UNITEA のような食器のみならず、建築もデザインされています。カプセルホテルの 9h はどのような経緯でデザインされたのですか？

もともとひとつのカプセルユニットをデザインしてほしいという仕事だったのですが、最終的には全てをデザインすることに（笑）。考えてみればカプセルを並べたらフロアになりますし、積んだらビルになると思ったんです。建築から作るものもあるけれど、内側から作るものもあるからやってみようと思ったんですね。結果的には、9hをデザインしたことがプロダクトデザイナーとしての仕事の幅をすごく広げてくれたので、やってよかったなと思っています。今でも、この場所に作るのか、どの建築家をお願いするのか、どのようなコンセプトにするのかといったプロデュースを行っています。建築についてすごいと思ったのはメディアがしっかりしていることです。9hはAXISギャラリーで4日間だけ展示会を



Photo by Design Studio S

したんですが、世界中に発信されたんですよ。発信するというはすごく大事なことです。建築にしていってこのプロジェクトが世の中に広がっていくと思いました。建築はパワーがあるので、プロジェクト自体が人に知られますし、その建築を見たいという人も来ます。9hがなければ建築の人と仕事することもなかったので、とてもいい勉強になりましたし、面白かったなと思います。私自身も成長させてもらったプロジェクトです。

### 感覚的に考え、論理的に作る

「デザインする」ということは、どのようなことだとお考えですか？

例えば、100あることのうち、この80は違うという仮説を立てるのがデザイナーの能力です。その仮説の立て方が重要で、その仮説に紐づいてどのようなことがデザイン出来るのか考えるので、

よく学生には「感覚的に考え、論理的に作りなさい」と言っています。感覚的に思う美しさを論理的に作れるようになる瞬間が来るんです。そうなることがアマチュアからプロになるということだと思います。私がじっくりこなければ誰もじっくりこないし、私がじっくりきたら10人に1人はじっくりくるかなと。だから自分の感覚を人間の典型と考えて大事にしています。最終的に、素敵だと思う感覚的なこともデータとして数字で表現されますよね？ただ、自分がデザインものに対して素敵と感じるか客観的に判断することは難しいので、結局うまく成立させただけになりがちなんです。自分がものを買ったり選んだりする時の気持ちになって、素敵と感じることが出来るか判断する必要があります。学生のうちは成立させることで精一杯だから最後に素敵だとか美しいと感じるところまではいきません。でも、やはりそれは気にしなければいけないことで、最後は美しさがないと心に響かないし、響かないものを新しく作る意味はないですよ。



### 旅するように仕事をする

今後、デザインしたいものはありますか？

最近ミラノやチェコに行っていたことも関係していますが、土着の素材で物を作りたいと思っています。ガラスや木を使ったり、イタリアのものづくりを経験したり。これからは自分のために旅するように仕事をしたいです。以前、「50歳になったら今までやってきたことをゼロにしたい」と本で読んだことがあって、それから旅を始めました。こうした世界をめぐる経験は、今までデザイナーをやっていないと出来な旅なので、すごく楽しいです。1つの国に1つのクライアントが欲しいとも思っています（笑）。だんだん仕事で自分そのものになっていきますよね？そうした時に自分だけの旅が出来るようになると、すごくいいなと思います。ものを作るのが好きで、それが自分の大好きな旅につなげられて、行った先に自分がデザインしたものを使っている人がいたりして、しかも半分家族のような関係が出来るのって、素敵だと思いませんか？それは今、自分のためにやっていることであり、10年くらい前にやりたいと思っていたことでもありますね。

都庁を背景に、新宿中央公園でピクニックを楽しみました。

学生に向けてメッセージをお願いします。

社会人になると絶望を感じることもあります。私も大学で「デザインは世界を変えられる」と教わったのに、実際社会に出てみると何もできないじゃん、と思いました（笑）。学生にも社会人1、2年目はつらいよと話しています。でも、自由というのはその先にあるんですよ。仕事というのは自分を自由にしてくれるし、デザイナーは自由になりやすい職業だと思います。みんな卒業を迎えるともう自由がなくなって終わりと言うけれど、まだ本当の自由を知らないよ、って（笑）。本当の自由は大人でしかないんだから。私は40代が人生のゴールデンタイムだと思っているので。今は大変かもしれないですが頑張ってください！



# Summer Camp

今年度の夏のゼミ合宿は『すすれ香川 よーい、うどんどん!』をテーマに、香川・徳島を巡りました。自然あり、名建築あり、素敵な出会いと様々なものに恵まれた数日間となりました。忘れられない夏となった日々を紹介していきます!



## 28 | Mon. | Day1 | 小豆島

土庄港



土庄町役場の方に小豆島を案内していただきました!

みんなでそうめん



小豆島での昼食は、M2 岡野のお祖母さまのところであそめんやハモをいただきました。

おいしかった!



## 29 | Tue. | Day2 | 男木島 / 女木島 仏生山温泉

男木島、女木島を巡検しました。

女木島



仏生山温泉の経営もされている建築家の岡昇さんは、まち全体を旅館に見立てる「まちぐるみ旅館」を進めています。岡さんに仏生山のまち歩きとレクチャーでお話を伺い、日々の暮らしを良くすることでまちが良くなっていくという、まちづくりで大切な視点に気づかされました。

仏生山温泉

男木島



高松市内と丸亀市内を巡りました。

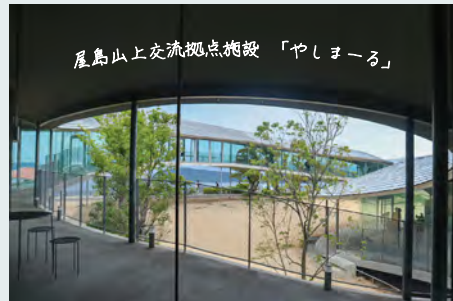


丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (MIMOCA)



副館長・学芸課長の中田さんからお話を伺いながら館内を巡りました。地域に開かれた現代美術館のあり方や、設計者である谷口吉生と猪熊弦一郎のエピソードから美術館空間としてのこだわりを学びました。

丸亀市中心市街地の商店街やマルタス(市民交流活動センター)を巡検しました。さらに、丸亀城の急な坂を登り、本丸から街や海を一望しました。



屋島頂上のやしまーるから高松の街並みや瀬戸内海の風景を眺めた後、イサム・ノグチ庭園美術館を訪ね庭園ならぶ彫刻作品を堪能しました。

イサム・ノグチ庭園美術館



高瀬の石積み

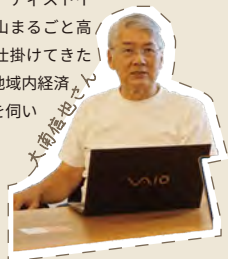
石積み研究者の真田純子さん、石積み学校の金子玲さんに空石積みのレクチャーを受け、実際に修復活動している集落を案内していただきました。

石積みの解説



大南さんのお話

「偶発性をデザインする」をキーワードに、アーティストインレジデンスや神山まるごと高専など大南さんが仕掛けてきた新たな人の流れと地域内経済循環についてお話を伺いました。どの活動も魅力的で大変刺激的な時間になりました。



## ぼくらとまちのせいくらべ

7月に行われた日本建築学会主催の「第12回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」に伊藤研の有志で挑戦し、最優秀賞を受賞しました。11月には江戸川台東口商店街にて、小学校1年生～4年生を対象にワークショップを実施しました。手や足、爪など、自分の身体の一部と同じ大きさのものを探しながらまちを歩き、撮影した写真でカードを作成し、絵合わせで自分のものを他の子と共有するという内容です。子どもたちは終始笑顔で積極的に取り組んでくれ、まちを構成しているもの大きさを知り、まちに興味・関心を持つきっかけになったと思います。



はじめは、十数年ぶりの子どもとの触れ合いに緊張しながらのワークショップでした。まちあるきでは、体を使ってまちを測っていきましたが、子どもたちの自由な発想に我々も驚かされました。絵合わせのため撮影した写真に写る、笑顔溢れる子どもたちの姿は印象的です。お昼ごはんもチームごとに楽しく食べました。



歩幅でタイルを測ってみたよ！

ぼくらはまちの探検隊！

身長とおんなじ高さみつけたっ！



江戸川台の地図イラストの上で行った絵合わせでは、子どもたちも駆け回っていました。閉会の際にくれた「来年はやらないの？」という子どもたちの言葉は、一生忘れない宝物です。参加してくれた子どもたちやお手伝いの皆さん、本当にありがとうございました。



## Open Lab

デロイトトーマツファイナンシャル  
アドバイザー合同会社  
城間さわさん (3 期生)



### 建設 / 開発コンサルタント (前職) の仕事内容を教えてください

建設コンサルタントはインフラ全般に関して行政をサポートする役割を担っています。国や地方自治体から仕事を受けて、道路や鉄道などのインフラの調査、計画、設計などを行っています。開発コンサルタントは海外の途上国支援などに取り組んでいます。ハード系だけではなく、途上国のソフト面を支えるのも開発コンサルタントの役割です。JICA や国際機関など、途上国の援助に関わる機関のパートナーとして、専門的な技術をもってサポートする立場です。

オープンラボでは、伊藤研究室卒業生の城間さんにお話を伺いました。

### 城間さんの卒業後の歩み

- 2010 年：玉野総合コンサルタント株式会社 (現：日本工営都市空間株式会社) 入社。3 年間国内で土地区画整理事業の事業計画を担当。
- 2013 年：2 年間モンゴルの貨物鉄道を建設の採択関係を担当。
- 2015 年：JICA の途上国における鉄道計画案件を中心に従事。
- 2019 年：JICA の都市再開発案件を中心に海外の都市計画業務に従事。
- 2021 年：コロナウイルス流行を契機に休職、1 年間イギリスの大学院で学び都市開発経済学の修士号を取得。
- 2022 年：帰国後、これまでと違う仕事をしたいと思い転職。現在は、デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社でインフラ公共セクターのアドバイザーとして、海外都市開発に関するコンサルティング、調査を担当。

### 現職の仕事内容を教えてください

直近で関わった案件が 2 つあります。1 つがスマートシティ評価指標の国際標準化に向けた調査です。日本が目指す生活者目線のスマートシティ推進に向けて、それを評価する指標を国際的に広めるための調査をしました。2 つ目は、東南アジア 6 개국とオーストラリアで、国として実際にどのようにスマートシティを推進しようとしているのかを調査しました。政策策定をサポートする仕事のため、現場とは離れますが、多様なバックグラウンドの方と仕事ができるのが強みです。

### なぜ留学を決めたのですか

自分の関心を一度リセットしたかったからです。建設コンサルタントの海外業務では、1 つの案件が 3 年くらい長く続いて、どこかで立ち止まって物事を考えるようなタイミングがありませんでした。この仕事を続けることの迷いもあり、考える期間がほしくて、留学をしました。開発学が盛んなイギリスで、経済的な視点から都市の開発学を学びました。大学には途上国の行政や中央省庁で働いている方も派遣されてきていて、ネットワークが広がりました。

学生が訪れた海外の都市を紹介します。

8 月上旬に、ドイツ、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、エストニアの都市を巡りました。(M2 平井)



フィンランド ヘルシキ中央図書館 Oodi



エストニア タリン ラエコヤ広場

夏は気候が良く、街の至るところで人が座って過ごしていました。



デンマーク コペンハーゲン ニューハウ

春から 4 ヶ月間かけてヨーロッパを中心に 15 国をバックパッカーとして巡りました。(M1 濱口)



フランス マルセイユ サン・ジャン要塞

要塞の上や窪みで、日の入りを眺めながらゆったりと過ごしました。



モロッコ サハラ砂漠

砂漠に住むベルベル人のテントを訪ね、ミントティーをいただきました。



インド バラナシ ガンジス川



## 2023 i-Lab 行ったところ！

今年もたくさんの思い出ができました！

### 神楽坂で歴史感じるまちあるき

飯配属の B3 と伊藤研の学生が地形や歴史に特色のある神楽坂でまちあるきをしました。グループ別のまちあるきで都市や建築を学びながら伊藤研の雰囲気を知ってもらいました。



3年生と  
交流したよ！



### 論文合宿で追い込む冬

📍 沖縄

2022年度の論文合宿は那覇で行いました。那覇文化芸術劇場なはーとで林立騎さんにお話を伺った後、B4とM2の論文ゼミを行いました。同期や先生方との議論を通して、自分たちが何を研究してきたのかを問い直すことができました。



📍 別府

2023年度の論文合宿は別府で行いました。まちあるきでは BEPPU PROJECT の皆様にまちなかのアートプロジェクトについてご紹介いただきました。温泉や食事で疲れを癒しながら夜通し研究を進めました。

別府のまちあるきは  
大変に楽しかったよ！



7月21日～23日に岩手県大槌町と周辺地域で、東日本大震災での被害と復興を知る巡検を行いました。現在と被災前後の街並みを見て、建築やまちをつくることの意味を考える機会になりました。



復興の足取りをたどる  
岩手県大槌町

前所長の磯川豊さんや役場の方には  
お話をお聞かせしたよ！



### 佐賀市でコミュニティの在り方を学ぶ

7月29日～8月1日、11月26日～12月5日に佐賀市で活動する方々にインタビューを行いました。

Code for Saga は、データを活用し、街の課題を解決するコミュニティ。IT 技術を使える人も使えない人も、全員に役割があることが印象的でした。



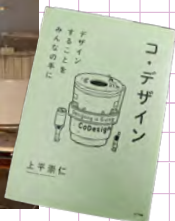
佐賀市役所では、スマートシティ実現の取り組みや、つながるさがしという校区ごとの情報共有についてお話を伺いました。

さがクリークネットは地域資源であるクリーク（水路）を活かした活動をしています。クリークに設置された川床によって交流が生まれるのを実感しました。

## レクチャー

### コ・デザイン 上平崇仁さん（専修大学教授）

『コ・デザイン』を執筆された上平崇仁さんにレクチャーをしていただきました。デザイナーだけではなく利用者が積極的にかかわりあいながらデザインすることの意義や実際の取り組みについてお話をしていただきました。事前の読書会の成果もあり、活発に議論が行われ、今後のデザインの在り方を考える機会となりました。



### HELLO GARDEN 西山芽衣さん、柿木絢さん、廣部滯さん（マイキー）

6月に株式会社マイキーの西山芽衣さんから、HELLO GARDEN などのプロジェクトやご自身の経歴を伺いました。まちづくりのプレイヤーとして一歩踏み出すきっかけやマインドセットを学びました。

11月にはまちあるきをしながら HELLO GARDEN や西千葉工作室を案内・解説していただきました。民間が開かれた場を用意しそのカルチャーを広げていくという姿勢に感銘を受けました。



## 研究室活動

### 読書会

研究室内の有志で齋藤純一『公共性』の読み合わせを行いました。「公共」について哲学的な視点を養う良い機会になりました。



### 論文発表

日本建築学会全国大会（京都大学）にて研究発表を行いました。沢山の発表を聞き、研究のヒントを得られました。



## 個人活動

### 九州デザインシャレット

天神駅前（福岡市）を対象に、まちの中心を「リ・デザイン」するWSに参加しました。九州の学生や若手技術者と広場の共同設計に取り組みました。（南谷）



### 中庭ゼミ

天気の良い日は中庭でラグを敷いてゼミなどを行いました。立入可となった芝生を使いこなしながら、気分を変えて議論できました。



### シビックプライド研究会

3月には、森雅志氏、芹沢高志氏、吉村有司氏をお招きし、シンポジウム「第3回シビックプライド会議」を開催しました。



### SHIBUYA PARK AVE. Design Workshop

渋谷公園通りの将来の姿を考えるWSに参加しました。全国の社会人や学生が入り混じり、渋谷の未来について連日議論を交わしました。（大山）



伊藤香織, 徳永景子, 前橋宏美, 結城和佳奈, 高柳誠也 (2023), 屋号語彙に表れる地域の特性: 旧唐桑町屋号電話帳にもとづく地理空間分析, 都市計画論文集 58(3), pp.1570-1577, 2023年10月.

本研究では、「唐桑町屋号電話帳」から作成した旧唐桑町全体の屋号語彙地理空間データに含まれる4600余語の屋号語の分布を地理的観点、社会的観点から定量的に分析し、屋号が人の認識を通して地域のような性質を表しているのかを探る。分析で得られた主な知見は、以下の通りである。(1)職業や家、分家、位置関係などを表す屋号語は出現頻度が高く、満遍なく分布しており、旧唐桑町全体に共通する共同体や位置関係の認識を表していると考えられる、(2)山、海、川、田、船、店、道など立地の地理的条件や人の活動を反映していると考えられる屋号語が多い、(3)特定の地区に集中する屋号語や特定の屋号語に偏った屋号語彙構成をもつ地区などが共同体の社会的条件を反映していると考えられる。

前田旭陽, 伊藤香織, 高柳誠也 (2023), 都市景観要素としての人の存在: 表情・アクティビティ・歩行者量が景観印象評価に与える影響, 都市計画論文集 58(3), pp.1578-1583, 2023年10月.

歩きやすい街を実現するためには、空間のデザインや配置、人々の活動が重要な要素と考えられている。さらに人間の表情も街並みの重要な要素となり得ると考える。本研究の目的は、人々のアクティビティと表情の関係を調査し、表情、アクティビティ、歩行者量が街並みの印象に与える影響を明らかにすることである。調査及び実験の結果、会話というアクティビティは、他の行動に比べて幸福な表情が増え、観察者に活気があり居心地良い印象を与えることがわかった。一人でのアクティビティは、悲しげな表情が増える傾向があり、観察者に活気のない印象を与える。また歩行者が多いと、観察者に活気のある印象を与えるが、居心地の良い印象にはならない。人が多いと活気はあるが居心地が悪い印象を与える一方、人が少なくても活気はないが居心地の良い印象を与える。そのため、1人でも複数人でも思い思いに活動できる公共空間の実現には、人が多く「活気」を感じる「賑わい」ある空間だけでなく、多様なアクティビティを許容する「居心地良い」空間が必要であると言える。

岡村隼多, 伊藤香織, 高柳誠也 (2023), 超高経年マンションの更新可能性の検討: 愛知県名古屋市におけるケーススタディ, 日本建築学会計画系論文集, 88巻 812号, pp.2789-2796, 2023年10月.

本研究は、今後各地で大きな問題となることが予想される超高経年のマンションを対象にして、その更新が進まない要因と解決の糸口を提示することを目的に行った。結果として、建替えのシミュレーションからは、余剰容積が無い物件が多く、建替え事業実施が困難である事例が多いことが分かった。また、建替え困難な事例の中にも、軽い負担で済むものからそうでないものまで幅があることが明らかになった。続いて、敷地売却事業のシミュレーションからは、高経年マンションの中古市場性が、敷地売却事業実施を妨げる可能性があることや、建替え困難な事例では敷地売却も困難な傾向にあることが分かった。以上より、高経年マンションの問題を抱えた都市部の現状と方策を示すことができた。

常泉佑太, 伊藤香織, 高柳誠也(2024), 公共空間を活用したアート活動における自治体のアートマネジメントの役割に関する研究: 「おおさかカンヴァス推進事業」を事例とした分析, 日本建築学会計画系論文集, 第89巻 第815号, 2024年1月 (掲載予定) .

本研究では、アーティストの公共空間での活動背景を踏まえたうえで、自治体に求められるアートマネジメントの役割を体系化することを目的とし、「おおさかカンヴァス推進事業」を事例に、アーティストの言説と自治体関係者へのインタビュー調査の質的分析を行った。結果として、公共空間における自治体のアートマネジメントの役割は3段階に分けられ、(1)事前準備段階では、アーティストの活動動機を考慮しつつアーティストの支援に対する姿勢を明確化した上での組織構築が求められること、(2)制作段階では、公共空間に対するアートの効果や影響への展望を保持した上で、アーティストの制作の計画的側面と柔軟的・即興的側面に対応しながらの作品検討と実施計画・安全管理計画が求められること、(3)展示・発表段階では、アーティストの鑑賞者への意識に配慮した上で、一般市民の作品鑑賞の補助等が求められること、が考察された。

# 論文・設計

## 論文

### 2022年度 修士論文

- 金沢優輝 高次元都市機能の立地みる地方都市圏域に関する一考察
- 岡村隼多 超高経年マンションの更新可能性に関する研究 —愛知県名古屋におけるケーススタディ—
- 田中里実 鉄道高架下の利用用途の配置とその特徴 —東京都内の鉄道駅に着目して—
- 土屋遼太郎 広域首都圏における人口移動の様相 —中央線・高崎線沿線自治体の転入・転出に着目して—
- 徳永景子 道と建物からみる斜面地漁村集落の空間の成り立ち —三重県尾鷲市の9集落を対象として—

### 2022年度 卒業論文(通年コース)

- 伊藤陽人 別所大誠 棚田集落の持続性 —房総半島の中山間地域における水田面積と人口に着目した分析—
- 辻耀 濱松翔 スケッチマップの描画順にみる都市空間の把握 —表参道周辺の自由散策行動実験から—

### 2023年度 卒業論文(一般コース)

- 安藤朋恵 太田一帆 シビックテックコミュニティへの参加の状況にみる活動の遷移 —Code for Sagaを対象として—
- 陳嘉植 骨格推定を用いた公共空間でのベンチ着座姿勢に関する分析 **最優秀卒業論文賞**
- 辻本桜子 許山桂 「演劇の街」下北沢における劇場群 —公演記録に基づく劇団の活動に着目して—

## 設計

### 2022年度 修士設計

- 孫溪澤 BRAND EXPERIENCE
- 東裕花里 山考 —一連の山行体験からなる自との対話—
- 結城和佳奈 食景を繋ぐ膳 —完全自動運転化による車と建築空間の在り方— **修士設計賞優秀賞**

### 2022年度 卒業設計

- 佐藤水香 ゆったりとのぼる
- 濱口桂帆 暮れをすこす処
- 鈴木慎 借りぐらし
- 四方田綾乃 馬と生きる
- 佐藤小珠 水と暮らす —浸水を考慮した水辺建築—
- 南谷優太 路地空間における広場建築



食景を繋ぐ膳 結城和佳奈

## 対外発表

- 伊藤陽人, 伊藤香織, 高柳誠也 (2023), 棚田集落の持続性: 房総半島の中山間地域における水田面積と人口に着目した分析, 日本建築学会学術講演梗概集 農村計画, pp.19-20.
- 佐藤水香, 伊藤香織, 高柳誠也 (2023), シビックテックの活動とそれに関わる市民の意識, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.133-134.
- 高柳誠也 (2023), 農林業センサスからみる集落と都市住民・NPOとの交流に関する全国傾向分析, 日本建築学会学術講演梗概集 農村計画, pp.217-218.
- 常泉佑太, 伊藤香織, 高柳誠也 (2023), パブリックアートの制作プロセスにおける即興性と計画性に関する分析: 「おおさかキャンパス推進事業」を事例とした質的分析, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.507-508.
- 四方田綾乃, 高柳誠也, 伊藤香織 (2023), 屋外公共空間における着座の選択可能性と誘引性: 北千住駅西口ペDESTリアンデッキでの観察から, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.523-524.
- 岡野遼太郎, 伊藤香織, 高柳誠也 (2023), 公共空間における排除の空間要素への一考察: 渋谷区立公園を対象として, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.525-526.
- 濱松翔, 辻耀, 伊藤香織, 高柳誠也 (2023), スケッチマップの描画順にみる都市空間の把握: 表参道周辺の自由散策行動実験から, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.799-800.
- 平井聡一郎, 伊藤香織, 高柳誠也 (2023), 画像解析技術を用いた歩行者空間の利用実態の捕捉, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.897-898.
- 南谷優太, 伊藤香織, 高柳誠也 (2023), 災害弱者利用施設の立地傾向と災害リスク: 球磨川流域を対象として, 日本建築学会学術講演梗概集 都市計画, pp.1003-1004.
- 一谷和希, 伊藤香織, 高柳誠也 (2023), 民間人による明治初期の馬車鉄道計画について: 東京馬車鉄道会社の設立までを対象として, 第43回 土木史研究発表会, 土木史研究講演集, Vol.43, pp.1-6
- 高柳誠也 (2023), 明治神宮外苑の道路舗装工事におけるワービッド工法導入過程に関する一考察, 土木史研究講演集, Vol.43, pp.173-178.
- Kaori Ito, Hikari Tsuji, Sho Hamamatsu, Seiya Takayanagi (2023), Investigation of Sequential Order of Sketch Map Drawing After Walking in the City, the 31st International Cartographic Conference.

## 受賞

辻本桜子 C league2023 最優秀賞 日常にとけこむ

大山優 伊藤陽人 佐藤水香 濱松翔 南谷優太 四方田綾乃  
第12回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ 最優秀賞  
ぼくらとまちのせいくらべ-大きさ神経衰弱であそぼう!



日常にとけこむ 辻本桜子